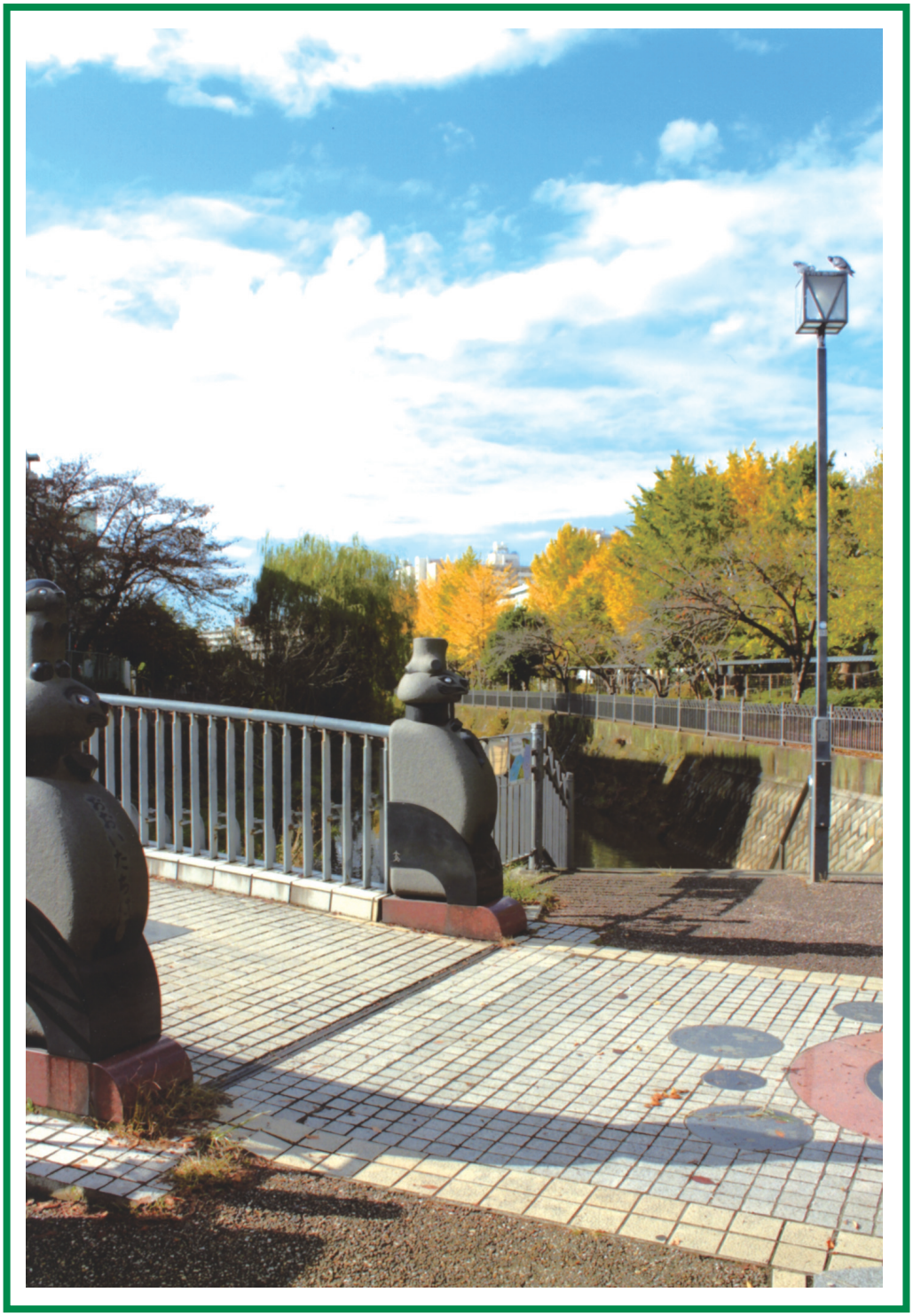
栄区文化協会広報誌

さわやか

題字　安藤紫水氏揮毫

NO.５０ 特集号
２０１６年９月発行
栄区文化協会
http://sakae-bunkyo.com

栄区文化協会設立２０周年記念



～目 次～

・栄区文化協会設立
２０周年記念式典･･･２
・ご来賓の皆さまと
ご挨拶（要旨）　･･･３
・文協２０周年記念
コンサート　　･･･３
・栄区文化協会設立
２０周年に寄せて･･･４
・歴代会長のメッセージ
･･･５
・インタビュー
“２０年そしてこれから･･･”
･･････６～１５
（ポスターで見る２０年･･･１１）
・出来事２０年
･･････１６～１８
・２１年目のスタート
･･････１９
・賛助会員の皆さま
･･････１９
・２０年目の Concerto
･･････２０
・編集後記　･･････２０

大いたち橋「秋晴れ」
野仲加津子

栄区文化協会設立２０周年記念式典

２０周年記念式典会場

“２０年の知恵とノウハウ”高齢化を吸収して前へ

風間 聰彦 氏（栄区文化協会第五代会長）

本日、私ども栄区文化協会 20 周年の式典にお越しいただきましたご来賓の皆様、特に今日は多くの団体の総会開催日とのこと、その中を駆け付けてのご臨席　厚くお礼申し上げます。また文化協会の皆さん、この記念日を盛り上げようと二百数十名にも上る出席、有難うございます。

この栄区の人口は日本全体の 1/1000、そのまた２％が栄区文化協会の会員です。小さな集団ではありますが横浜 18 区内では、特異な進化を続けて 20 周年を迎えました。これも行政、町内会、賛助会員、諸施設運営の皆様のご協力のお蔭と感謝して居ります。更には、恒例の秋の芸術祭、春の文化祭等の展示ギャラリーへ、舞台公演の会場へとお運びくださる区民の皆様あってこそ、とお礼を申し上げます。

この 20 年、文化協会そして単位協会としての活動は、全てが順風満帆とは言えず、“次からはこの様に”と目標を立て直しての再出発は幾度もあった事でしょう。そして今日は、５年、10 年に一度の、長期的な展望を見据えるその日になります。20 歳に達した栄区文化協会は、社会的にも能力的にも自らの将来を決める力を持っています。

いま文化協会が抱える課題の第一は“会員数の減少”です。設立当初の 3,500 名は個人の都合、団体の事情により、会員増加を図る大方の努力にも拘らず、現在は 2,200 名になりました。この傾向は時代の流れでもあり、好転を待つのではなく、乗り越えるしかありません。ここは暫時立ち止まって策を練り、「質を高める」「活動域を拡げる」を求めることを目指しては如何でしょう。「常に新しさを意識し、変革の道を探し、出来ることはヤル」ことで自身が納得し、地域力とも親和させて行けば前途洋洋は夢ではありません。

30 周年が楽しみです。

栄区文化協会の 20 周年を一緒に祝ってくださいました皆様、本日は洵に有難うございます。

ご来賓の皆さまとご挨拶（要旨）

◆横浜市栄区長　　小山内いづ美　氏

栄区は文化協会が独自に活動され、その幅の広さ、奥の深さ、質の高さには素晴らしいものがあります。私はこの四月の着任ですが、文協の一層の発展に向けて、会員増への応援、活動場所の確保など協力して参ります。お隣り鎌倉市の皆さんとの交流は活動の幅を拡げます。栄区30周年、文協20周年、楽しく記念事業をお祝いしましょう。

◆栄区連合町内会会長　　磯﨑　保和　氏

文化協会の20年は長く、積み上げた力は大きい。芸術・文化の分野での研鑽成果を地域文化の発展に寄与させるなど、敬意を表します。栄区連合町内会も協力して行きます。栄区制30周年記念事業、一緒に活動、成功させましょう。

◆栄区社会福祉協議会会長　　日浦美智江　氏

秋の芸術祭、春の文化祭には、いつも楽しく出かけています。文明は機械の発達とか、発明、発見の積み重ねですが、文化は精神的な価値の成果。この文化を2,200人、160グループの皆さんが、この地域内で展開されていること、こんな嬉しい力強いことはありません。仲間との繋がりを大切に地域発信を続けることは、栄区民の宝です。

◆栄区文化協会初代会長　　北條　祐勝　氏

文協設立20周年は、私にとっても有難いことです。20余年前、栄区郷土史研究、交通安全に携わっていた私は、協会設立に動いていた皆さんに発起人会に引き込まれ、更に初代会長に就いてしまいました。以来「文化」を素晴らしいものに仕上げようと努め、今は協会の皆様に大きい期待を寄せています。私も出来ることはやらせて頂きます。

◆横浜市市会議員（議員団代表）輿石　且子　氏

横浜市には文化観光局があり、文化の経済的影響力に着目しています。文化には爆発的なエネルギーがあります。皆様ご存知の画家ゴッホが世界中から観光客をオランダへ引き寄せています。将来に亘ってもこのエネルギーは断えません。文化協会20周年のこの場に立ち会える事を感謝し、自分の時間を精一杯、文化活動に注ぎます。

（順不同）

◆神奈川県県会議員	楠　梨恵子　氏
◆横浜市市会議員	大桑　正貴　氏
◆横浜市市会議員	石渡由紀夫　氏
◆栄区副区長	神山　　篤　氏
◆栄区地域振興課長	早乙女誠一郎氏
◆栄区青少年指導員協議会会長	小西　淳一　氏
◆栄区体育協会会長	丸山　　隆　氏
◆上郷西連合町内会会長	新保　孝雄　氏
◆小菅ヶ谷連合町内会自治会会長	田中　健次　氏
◆栄公会堂館長、ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ所長	野中　理子　氏
◆地球市民プラザ館長	城島　理子　氏
◆栄区民文化ｾﾝﾀｰリリス館長	遠藤　美彦　氏
◆よこはま緑の推進団体 栄連絡会会長	榎本イク子　氏
◆横浜銀行本郷台支店長	小野　　真　氏
◆鎌倉市書道協会会長	山崎　成大　氏
◆栄区書道協会	中野　桂月　氏
◆さかえ次世代交流ステーション	岩堀まゆみ　氏
◆栄区地域振興課係長	荒井　泰広　氏
◆栄区地域振興課文化協会担当	青木ゆき子　氏
◆上郷地区センター館長	柳沢　保利　氏
◆豊田地区センター館長	伊藤　　進　氏
◆本郷地区センター館長	杉野　政一　氏
◆(有)豊田印刷所社長	金子喜久男　氏
◆タウンニュース社栄区編集長	金谷　広志　氏

文協２０周年記念コンサート

《合唱》オーケストラと合唱のための交響詩
「栄区賛歌」（″わが町に寄す″など３曲合唱）
合唱　：コールやざわ、栄女声合唱団、はなみずき、
　　矢沢男声合唱団、横浜さかえ男声合唱団の有志
箏　　：栄区邦楽協会会員
三味線：原田直真紗（栄区民謡連盟）
指揮　：田川理穂、ピアノ：田中初芽（栄ソリスティ）

《津軽三味線》「津軽じょんから節」
演奏：原田直真紗
　・高橋幸次郎
（栄区民謡連盟）

《日本舞踊》「春の海」（宮城道雄作曲）
舞踊：東　光菊（栄区舞踊連盟）
演奏：箏、尺八（栄区邦楽協会会員）

栄区文化協会設立２０周年に寄せて

独自の地道な活動を応援！

横浜市栄区長　小山内いづ美　氏

栄区文化協会設立 20 周年を心よりお祝い申し上げます。

本年、区制 30 周年を迎える栄区では、緑豊かな自然環境のもと、区民の皆さまが、文化・芸術活動や地域活動に熱心に取り組まれ、日々を生き生きと過ごしておられます。

これまで、独自に活動・運営している団体が集まり行動するにあたり、様々なご苦労がおありだったことと推察いたしますが、20 周年の記念式典で拝見しました「栄区賛歌」の合唱･箏･三味線のコラボなどは、まさしく、違う分野が集い新しい価値を生み出すということだと感じました。

皆さまの 20 年に亘る地道な活動の積み重ねが、現在の栄区の文化振興につながっておりますことに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

今後も、栄区文化協会の活動を応援し、皆さまとともに、区民一人ひとりが元気で心豊かに暮らせる街づくりを進めてまいりたいと存じます。

最後に、栄区文化協会の益々のご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

心豊かな文化協会活動に敬意と協力

栄区連合町内会会長　磯﨑　保和　氏

栄区文化協会が設立から 20 周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

創作・教養、音楽・芸能という多岐に渡る分野で活動する 2,000 人を超える会員を支え、栄区の文化振興の発展に大きな役割を果たされてきた文化協会の皆さまのこれまでのご努力とご尽力に敬意を表します。

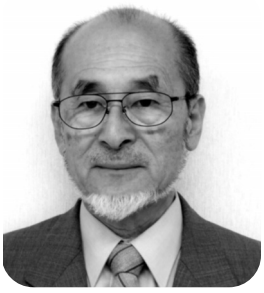
文化・芸術は、生活を潤し私たちの心を豊かにしてくれます。私たちの住むこの栄区は、日々の暮らしの中で、身近に文化・芸術の息吹を感じることができる素晴らしい地域で、連合町内会長といたしましてもとても誇らしく思っております。

誰もが自分らしく、元気に、生き生きと過ごせる地域づくりのため、連合町内会といたしましても、今後とも皆さまのご活動にご支援・ご協力してまいりたいと存じます。

末筆となりましたが、貴協会のますますのご発展と会員の皆さまのご健勝を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

栄区制３０年、文化協会２０年を祝し、就任のご挨拶

栄区文化協会第六代会長　西崎　進治　氏



はじめに、当協会の設立 20 周年、そして､栄区制 30 周年を皆様と共に心から祝いたいと思います。

当協会は、多岐にわたる分野、プロとアマチュア、それらが協調し一体となって活動するというユニークな団体で、20 年間、発展しつつ存続してきたことは、賞賛に値することと思います。そして、そこには、先人の知恵と苦労の跡がうかがわれ、また、関係の皆様のご協力、ご支援があってのことと、心よりお礼申し上げます。

さて、今年度は、秋に開催する区民芸術祭では、いたち川オブジェ、記念音楽祭などの特別企画を加えて趣向を凝らし、記念事業にふさわしい内容に仕立てております。そして、年度末のさかえ春の文化祭で事業を締めくくります。

中期目標としては、①協調・協力と調和による企画力の向上、②視野拡大と心のゆとりによる活動域の拡張、③文化活動による震災復興支援、以上の３項目を掲げ、推進したいと考えております。引き続きのご協力、ご支援をお願い致します。

歴代会長のメッセージ

文化協会設立前夜

初代会長　北条　祐勝　氏

四十数年前、横浜市で第二番目に発足した本郷地区センターは地区内や近隣の人々の人気を呼び、港南区や大船方面からも種々のジャンルの方々が来訪され、活発な動きが始まりました。

当時私は本郷小学校ＰＴＡ会長を勤めていた関係で、創立当初から運営委員に委嘱され、偶々この地に生まれた縁もあり、新旧両者との交流も多々あり交際も深まりました。地域の開発により「温故知新」に目覚め、郷土史研究会もその中で誕生しました。

地区センターに集う各種団体も日を追って多様になり、サークル・教室等々が連携する為に文化協会を設立しようという動きが加速してきました。準備会が進む中で私が初代会長を引き受けざるを得なくなったのが実情です。

今後のご発展を祈念いたします。

菊づくりが健康の元です

第二代会長　上園　正憲　氏

文協設立 20 周年、皆さんの不断の努力・合力により、これまで成長され感慨無量です。嬉しい限りです。私は只今 93 才､モウチョイで 100 です。

12 年前に引退して後、前半は福島県の楢葉町で自然と花園に囲まれて、のんびりと過ごしましたが、「3.11　東日本大震災」の直撃を受け、更に放射能と住環境難を避けながら転居 4 回。今は、つくば市豊里の杜に住み処を新築し､早速菊づくりを始めています。

ご丹精の花壇でツーショット

いまや日本中が高齢化、〝栄区の菊〟を育てて行くのは、少し年老いた菊花会の皆さんです。肝を据えて繁栄を図って下さい。期待しつつ願っています。栄区の皆さん、ご機嫌よう。

貴重だった文協時代

第三代会長　木澤　要治　氏

太極拳　最前列のご夫妻

「あれから 10 年経ちましたか」とインタビュー第一声の木澤さん。文協会長時代には会員の高齢化について、「特に伝統的な作法（華道、茶道など）・芸能部門では世代交代後の年輩者に活躍の場をつくることが大事」、と話していたそのご本人は 2 年前に 28 年間活動した栄フィルを退団、文協も退会されている。手の指が痛み、ヴァイオリンもペンにも疎遠と話しつつも極めて快活。「上手な皆さんと一緒に、自分なりに高みを目指して励んだあの年月は貴重であった」と懐かしむ。

文協の組織を「右脳､左脳の機能分野」からの連想で、現在の両事業部制に改編した木澤さん、今は 13 年前に立ち上げた太極拳 50 名ほどのグループの中で、毎朝 30 分の演技を楽しんでいると、語って呉れた。　（Ｔ.Ｋ）

祝２０周年

第四代会長　北山　士童　氏

栄区文化協会設立 20 周年、おめでとうございます。10 周年の記念行事を一緒に祝ってからもう 10 年。栄区文化協会は他の文化協会に比べて独自性が顕著で、自己完結的な運営を実施して来ました。他県の例では、市長さんが協会の会長を兼務する、役所のＯＢの方が天下りして会長になり組織を運営する等のスタイルがある中で、栄区では行政の人的支援を必要としない独自の運営を行って来ました。

これは当会を立ち上げた方々の高い理想と強い独立志向の為せる業であったと思います。実際に沿って会を運営するには大変な苦労がありましたが、夫々に工夫を重ねて見事に達成して参りました。

現在会員数が逓減傾向にあるという懸念材料はありますが、30 周年を目指して、更なる発展をお祈り致します。

インタビュー　“20年 そしてこれから･･･”

◆栄区美術家協会

《横浜に“上野の森”を》

昨年は当協会設立30周年。秋、芸術祭会場の一室で子供達が、1.4×10mのビッグキャンバスに、縦横に絵筆を揮っていた光景見ましたか？お三人は「あれはいたち川を描いた傑作だ」と子供たちのアート力を讃えた。区役所一階ロビーに展示された後、今は倉庫内に。

みんなで描こういたち川 2015

この美術家協会、普段は個々の活動に徹しているのかと思いきや、「毎年５月頃、バスで行く美術館めぐりには、毎回10名近くの非会員の方も参加し、地方の由緒ある美術展や特別展を共に楽しんでいる」との情報。宝探しツアーを想わせる何かがありそう。

赤堀郁彦さん、飯田力也さん、関口照雄さん

５年後は35周年、何か企画は？と問いかけると、「横浜市庁舎新築・移転の跡地（関内駅前）に、使用性の高い市民ギャラリー、気軽な集会室がほしい」と具体的。“上野の森”を横浜にも､の願望だろうか。

更に、「近隣の市、区との交流を一層進めたい」とかなり意欲的である。

そして「公共的な建物は機能オンリーでなく、ヨーロッパに見られる様に絵画を飾るゆとりがほしい」と。どうやら「寄贈」という手もあるようだった。誰かまず扉を叩いてみては・・・。　　（K, O）

◆栄区音楽協会 個人演奏部門

栄ソリスティ 瀬畑久美子さん､さかえシャンソン同好会 福島正枝さん

《クラシック シャンソン、その道をゆく》

文協と同じ年令の栄ソリスティは、20年間に秋の芸術祭の“素敵なすてきなクラシックコンサート”と自主公演のコンサート45回。「音大卒同程度、個人演奏が出来る」を入会資格とし、現在会員は70名。コンサートプログラムは、「基本は手を挙げた人。実際は手を挙げられる人」で作る。「個々人のスケジュールを文協の日程に合わせるのは簡単ではない」そうだ。

栄ソリスティ
オペラ「ヘンゼルとグレーテル」2014

「栄ソリスティのヒットは、毎水曜日、栄公会堂Ｂ１Ｆでの“さんぽみち水曜コンサート”。既に700回を超える。しっかりとした繋がりである。

シャンソンは1998年に発足。当初は栄ソリスティと一緒だったが、同年リリス開館を機に自立。一時23名になった会員も今は14名。「20人居ると立派な舞台を作れる」と元気な福島さんも肩を落す。

この秋の芸術祭の〝シャンソンの夕べ〟のプログラムは、「選曲は各自で、順番はあみだ籤で決める」と愛好会らしい決め方である。

同好会の仲間６人でアミューズコンサートを奇数月にリリスのリハ室で開催。あまり知られていないようだが、毎回60人で満員、無料。メンバーは大体200曲ぐらいは歌えるというから、ちょっとしたアングラ小劇場である。1月には50回記念のコンサートをリリスホールで予定している。バンドを入れて、ファンの心をギューッと掴む。意気込みが見える。

華やか シャンソンの夕べ 2015

話題が会員の確保に戻り、このご両人で相談を始めた。栄区外居住の入会希望者への対応に苦慮する福島さん、前広のヒントを得られたのだろうか。

（K, N）

◆栄区邦楽協会

栄区三曲協会　角田操子さん、謡曲観栄会　藤本圭佑さん

《古典を愛し、つなげる熱意》

ほぼ 700 年前に完成した能楽の世界。観阿弥、世阿弥父子は中学生も知る歴史的人物、能楽の始祖。世間の常識は大概この辺まで。その次のステップは、能楽のなり立ち、社会的な位置づけ、足利から秀吉、徳川幕府下での境遇、明治になって岩倉具視の訪米等、部厚い能楽の教科書を速読するかのように物語りが脳内を通過する。はっきり記憶に残るのは、世阿弥が残した言葉“初心忘るべからず”。日本人の人生訓、座右の銘としてトップ３に入る含蓄ある名言である。もう一つは、「岩倉具視がアメリカでの歓迎式典で聞いたオペラの素晴しさに感動し、伝統芸能の謡いと舞いの中にその感動を再生させた」という件り。

藤本さんは「去年編集した“観栄会 20 年のあゆみ”を愛好者・志望者に差し上げたい」と、特に 60 代の仲間が増えるのを待ち望んでいる。「観栄会の会員は 23 名、内男性８名の平均年齢は81才､毎月１回は集まっている」という元気集団でもある。

創立 20 年記念謡会（久良岐能舞台）

後半は邦楽協会の角田会長の出番。「公演では一人でも多くのお客様をお迎えしたいので、箏と長唄、箏と謡曲などのコラボを組みたい」、「邦楽は特に鎌倉のグループとのコラボが似合うかも知れない」、「お正月も邦楽の演奏が少なくなっている。ニューイヤーコンサートにも名乗りを上げたい」など抱負を連発。「詞章（歌詞カード）の配布で、わかり易い演奏会も」実現しそうだ。次の演奏会には新しい何かが、期待できそうである。

（K, N）

◆栄区音楽協会 管弦楽部門

栄フィルハーモニー交響楽団　宮崎　修さん、青山俊一さん

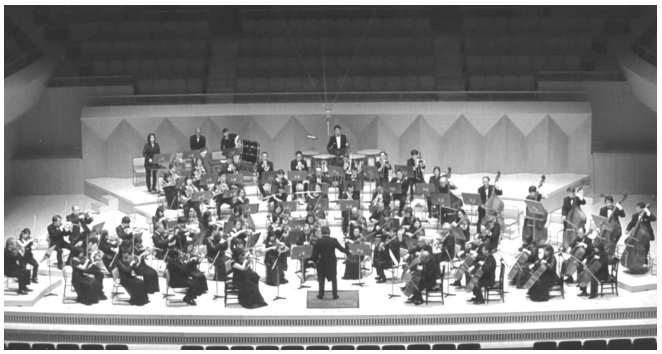
《華麗と格式 伝統を支えて》

栄フィルは、1986 年栄区民オーケストラとして結成され、今年 30 才。宮崎さんは、第９代目の団長、年令は団員平均より少し若い。定期演奏会を 54 回、夏休みコンサート 25 回、栄「第九」は 2015 年２月に第九回に達した。

オーケストラのステージ、華かさと格式。多様な楽器奏者をパート毎に整えるのは、個性的なメンバーであれば尚更、演奏以前に種々問題も起り得ようが、その辺りは「天の采配とキメ細かい運営で、民主的に諤々と治め、音楽性を技術的に進歩させたい」と宮崎さん。

コンサートマスター青山さんの心くばりも並ではない。技術面でのリーダーであるとともに「若い人の才能を引き出し、ヤル気を起こさせ、時にはベテランの広い識見に耳を傾ける」と熱心に取り組む若い人への力添えは惜しまない、強い意志が窺える。この 10 年間での出来事は、「第一に松村先生を常任指揮者に迎え入れ、栄フィルのレベルアップに直結した」、「先生は全団員にプロと同じような要求をする。団員の意識が変わった」とお二人熱く語る。ＴＶの小沢征爾音楽塾での練習ぶりを引合いに、“栄フィルの練習の場を見せて下さいますか”と肩をすぼめて訊ねると、「あの練習状景を見て貰ったらファンが増えるかも知れない」と前向きの返事、楽曲への入魂過程を見ることへの期待がふくらむ。

常にマネージメント、練習に没頭かとも思われるお二人、勿論本来の仕事がメイン。「ヴァイオリンは 10 歳からですでに 58 年」と青山さん。大学でオケに目覚め、仲間作りも進み楽しさを募らせた」と。宮崎さんは、大学で第九の合唱を体験後「やりたいのは合唱なのか」と自問して器楽へ。シンガポール駐在中にフィリピン人の老師からチェロを学び、30 歳過ぎてのスタートとのこと。



創立 30 周年記念演奏会 2016

今年の夏休みコンサート。「オーケストラ・フェスティバルとして楽器体験、指揮体験のほか企画は多彩。特に脇本さん一家の協力で盛り沢山、多くの子供たちと楽しみ私たちもすこぶる刺激的でした」。栄フィルはバランスのよい成長過程にあると見えた。

（K, N）

◆栄区書道協会

今中惇子さん、高倉真知子さん

《出来そうなことから始めましょうよ》

設立から６か月目の文協へ、生まれたての書道協会が加入。以来お二人が見た 20 年間は～

「初期の展示会場は、本郷地区センター２階の廊下、公会堂の講堂・事務所の壁面であったが、発表の場を得られた喜びは大きかった」と述懐。

「書」も「篆刻」も

「平成 10 年、リリスギャラリーの開館は“水を得た魚”の様に歓喜し、以来芸術祭、文化祭を重ねながら展示の仕方も上手になり、作品も“その処を得て”向上もした。「数年前から、リリス側の事前準備へのご配慮で、作品掲出時の高所作業が減ったのが大きな応援力となるなど、恵まれた環境には感謝しています」と。書道協会の課題は、大方の単協と同じ、会員の高齢化・減少にある。「グループでの入会者が心配する、〝役員、会議の負担〟を軽くする」、「鎌倉の書道会との合同展、協賛展など、運営を前広にする」、「次世代交流を積極的に進める」、「区内の学校へのアプローチ」、「書道協会には“悠遊会”という代表・役員を置かない独り書を趣味とし、独り習い楽しむ人達を迎え入れるグループがあることをＰＲする」とアイデアを列挙し、“先ず、出来そうなことから始めましょうよ”でインタビュー終了。

（K, O）

◆栄区園芸協会

石井昭彦さん、松沢淑雅さん

《展示の作法は盆栽への礼儀》

文協設立 20 年だが、この地で生まれて 70 年余の石井さんの話は興味深い。「昭和 46 年に、当時の農協２階で初めて盆栽展を開いて以来、県下屈指の 40 団体が活動した時期があった」、「この地区での山野草のはしりは 4 号線建設工事で山が削られた際に伐採された草木をいとおしみ、記念にと、盆栽に仕立てた」と。

「山野草はえびね会として始まり、東洋蘭と一緒になった。今年はその 27 年目」、「盆栽は“自然”を生かし、花は秘めるが如くが要諦。３点飾り（盆栽、書、季節の草花）、鉢の足の向きなど展示の作法は、自然体の樹木に人の手を加える際の盆栽への礼儀でもある」とは鉢いじりの仁義か。

松沢さんは言う、「我々の山野草は難しいことはなく専ら、育て、花を咲かせ、見てもらって楽しみ満足するもの。入門者には、お金をかけず、鉢は安い茶碗の底にトンカチで穴を開けて・・・など。しかし、鉢の置き方には心を配る」と。

はやりのこけ玉　年季の盆栽

盆栽の 200 年、300 年は珍しくない。の話から、“ＴＶ．なんでも鑑定団”に飛ぶ。栄区制 30 周年記念の事業のひとつである。「300 年の盆栽なら 300 年の鉢もある筈」と。お宝が出るか！？

（K, O）

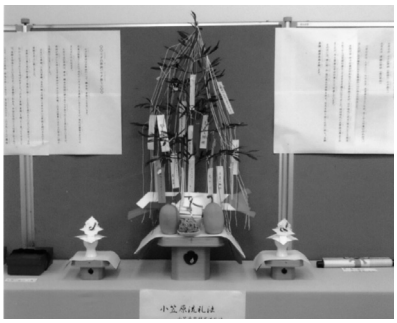
◆栄区礼法の会

前田菱紀さん

《心と様式と》

平成 22 年、文化協会へ加入。その時の名称は礼法真和会。礼儀作法の会である。

日本古来の文・芸道は、〝礼に始まり礼に終わる〟と言われ、書道、華道、茶道、棋道など歌舞音曲を含めて多くの“道”が付く分野があり、当初は文化協会の内部でも芸術祭参加でも、その居所、形を定めきれず、戸惑いがあったようだ。



七夕の節供　床飾り

加入の翌年、栄公会堂での公開講座で、栄区長尾仲さんのゲスト出演があり“お辞儀の作法”を共演してから「作りもの、飾りもの、動作・仕儀の展示に明確なスタイルが持てるようになりました」と語りも快活になる。

礼法を志したのは「30 歳代に入り、何か生涯続けられる学習はと考え抜いて叩いたのが、小笠原流礼法の門でした」と決断の足取りを振り返る。

東京までのお稽古通いも時が経ち、宗家より、小学校から大学までの一貫校で礼法講師を任され、東京、千葉へ 20 数年通いました…」等々熱の入った詳細説明があり、「そして平成 22 年講師を辞めて文化協会加入…」と続く。

栄公会堂の事業“大人と子供の礼法教室”を担当し、その結果を横浜能楽堂で披露する。「子供たちは、そこで更に成長して呉れます」と眼が輝く。

会員は現在 20 名程、小グループながら、胸を張った活動を続けている。

礼法談義は、和、洋式での食事時での作法に及びその一つひとつに頷いていると、「あと５年、10 年は体力的にも大丈夫です」の声も聞こえて来た。

（K, O）

◆栄区茶道会

《タイムカプセルはいずこに》

平野宗昌さん、松野宗美さん

来年は設立 30 周年の茶道会。「10 周年は遊行寺で 20 周年は三渓園で記念の茶会を開いたけれど、来年の会場は未定、頭が痛い」と神妙な口ぶり。しかし、本当の頭痛のタネは「会員の高齢化もあり役員になり手が居ない。会議への出席が難儀になって来ている」と弱音が混じる。

茶道会年誌には“2001 年、あーすフェスタ参加”がキラリと光を放ち、以降お茶の出番は継続し、新しい伝統を作りつつある。

「５年先、10 年先の姿は、今何とも言えない」と苦笑しながら、「上郷地区センターでの年４回の月釜（お茶会）、公会堂事業への協力講座は月２回の“はじめてのお茶”が会員増に繋がればと願っている」と結ぶ。

ここで、松野さん、突如「30 年前、栄区誕生記念のタイムカプセルを埋めた憶えがある。いつ開くのでしょ」と発言。平野さんは、記憶がないらしい。“知る人ぞ知る”で、20 年後に、掘り出されるのかも知れない。お楽しみに。

キッズの茶道教室

（K, O）

◆栄区民謡連盟

《ギネスに挑戦 コラボに意欲》

原田直真紗さん

「昨年は日本武道館で 1,200 余名での津軽じょんからがギネスに挑戦。今年 10 月には 1,600 名の三味線合奏で武道館を五輪色に染め上げるイベントがあり、私達の連盟から 60 名が出演を予定し、目下訓練中」と原田さんは一気に語る。

津軽じょんから節（六段）合奏

「民謡は全国何処にでもあり、生活に溶け込んでいます。 同じ名の歌謡でも謡い廻し、音程が違い、夫々の味わいは楽譜で表し切れず、ひたすら先生に随いて覚えるしかありません」、「伝承部分が多いので、能力無限大の子供・学生には責任を以ってキッチリ教え込みたい」と意気が挙がる。

但し「民謡は人を選ばないけれど、三味線は好奇心が強い根気ある人を選別します」とも。

昨年度末に纏まった数の退会者が出たことについては「一時的な減員はいつも起こり得る。 必ず挽回できる」と微笑みつゝキッパリ。

文化協会内の他のジャンル部門とのコラボについては「今、原田会で“民謡合唱”を創って居り、男性の掛け声だけでも魅力増幅です」と意欲的。

来場者増を意図するコラボについては「会員同志、面識があると自然に会場への往き来が増えますよね」とインタビュアー泣かせの嬉しい一言が飛び出した。

（K, Y）

◆栄区舞踊連盟

東　光菊さん

《ゆかた 洋服で踊れます》

冒頭、昨年秋の区民芸術祭。芸能部門のプログラムは、初日・２日目共に 70 本の演目、編成・運営の苦労は理解できるけれど“より観客寄り”に工夫の余地は？ と問いかけると、

舞踊、民謡、詩吟の各単位協会及び活動団体(支部)毎の人数、出し物、個々の上演時間、入退場時間、等々 厳しく細かく、ご苦労の程を山ほど吐露された、が流石ベテラン「よく検討してみます」と引き取ってくれたので、ホット胸を撫で下ろす。

舞踊連盟も会員減についての悩みがあるが、他とは少し趣が違う。

「踊りは衣装、安くはない、着付けが出来ない、の思い込みが、踊り入門を躊らわせている」との事。東さん「新人さんは、ゆかた一枚、洋服のままでも踊れます」と断言。 この方式での栄公会堂舞踊教室は５年目。１～２年で踊れるようになり、今や成人になって続けている人15名と成果は上がっている。

「昨年の区民まつりでは、区役所前までのパレードで沿道の人達から身振り手ぶりの応援があった」と嬉しそう。

ありがとう ありがと音頭

多くの人の眼に留まる事が普及の鉄則らしい。

本郷中学へ出向いての着付指導も続けているが、併せて礼儀作法もスーッと受け入れられているのが、東さんの表情でよく判る。 そして、特に高齢の方には「踊り－仲間作り－お化粧－着物－舞台発表が生き甲斐に通じる」と〆て、夕方の部の教場へと急ぎ足で向かった。　（K, Y）

◆栄区美術連盟

小華和紘記さん、昼田　茂さん

《美術サロンへの憧憬》

連盟の設立は平成12年。ここ数年の会員数は､140名前後と安定している。加入 11 団体は、印象派、写実派、細密画、水墨画等と多彩にして画風も自由闊達。この 10 年の記憶は「文協 10 周年事業で、ネパールの画家、子供達の絵画 30 点余の出品があった国際交流展」と小華和さんが言い切る。会場はあーすプラザ３階の大展示室。会員の作品と合わせ 200 点余と華やかで力の入った展覧会になった。この企画は一回で終わった。第三者の協力という僥倖はあったが、準備、運営、事後整理等に課題が多く、以来休眠している。この時、意想外の人気コーナーがあった。昼田さんの“水彩スケッチ肖像画”は４～５分で仕上げる速や業。似顔絵とは異なり、その人の雰囲気を描くユニークさが女性たちの行列を作り出した。長老昼田さんは「これからもやれるよ」と気合十分。

会場の賑わい

会員増への最大の壁は、“役員になったときの負担を嫌がる”にあり、“いづこも同じ秋の夕暮れ”だが、年一回の総会に出席し、日常連絡はメールかファックスで、芸術祭、文化祭には参加の個人が集まって作る団体…もあり得る。の提案には身を乗り出して聴いてくれた。

会場の確保の話題は、栄シニア連との協力関係に及ぶ。案外知られてないが、20 年前の秋、“栄区民文化祭”（栄区主催、文化協会協力）時には、栄シニア連（当時は栄区老連）の第 10 回“趣味の作品展”での参加があった。2000 年、芸術祭が文化協会主催となったが、「今でも、芸術祭のプログラムには“協賛行事 栄シニア連、趣味の作品展”を載せている」と再認識。「その協力関係復活で、開催の時期、会場、費用、搬入・搬出作業等でお互いメリットが出るのでは…」と話が弾む。

未だ片思いだが、これを美術連盟が中心となって進めて呉れれば､と頼るのは､虫が好過ぎるだろうか。

インタビューの終了間際、“サロン風の場”が話題に。“サロン”、絵画に親しむ人には特別に響く。西洋の画家達が昼夜の別なく集い、作品を発表する場所。このお二人はそのようなサロンを夢見ているのだろうか。　（K, O）

ポスターで見る２０年

「栄区民芸術祭」「さかえ春の文化祭」

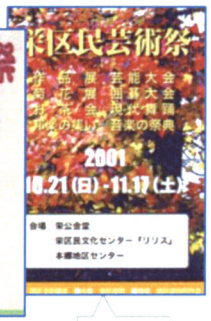
1996
栄区主催 区民文化祭
栄区文化協会設立

1997
春の文化祭
スタート

1998

1999

2000 以降
文化協会主催

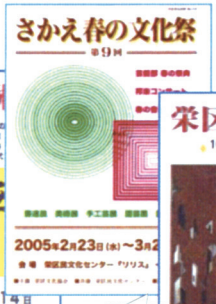


2001

2002

2003

2004



2005

2006
文化協会 10 周年

「さわやか」
(10 周年特集号)
発行

2007

2008

2009
横浜開港 150 周年

2010

2011
東日本大震災
により一部中止

2011

2012

2013

2014

2015

2016
文化協会 20 周年

◆栄区華道協会

志岐美玉さん　山中彩楓さん、高橋理智さん

《伝統の中 アイデア続出》

本郷台駅改札口を入り右手に在る一庵の花席には、諸流派の師範による生花が、年間一日も欠けることなく華やぐ。

当会の前身、本郷台地区華道会が、「街に花を」、「通勤、通学の皆さんに潤いを」、「街への訪問者のお迎えに」と限りない思いを以って始めた事業、掛かりは全て活け手の自前と聞いた。５日毎に花席の景が移ってきたのだから駅利用者は年間 70 点以上の花景と出会っていることになる。熱心とか伝統とかは既に超えて、執念に近いものが感じられる。

一方、一般世間並の課題に悩んでも居る。「会員の減少が心配」、「アイデアが浮かぶが、踏み切れない」らしい。そのアイデアとは、（１）会員を有資格者（師範）に限定しない。皆、一緒の会場に展示・発表する。（２）住宅、居室の様式が和から洋に移っている今、ハロウィンやクリスマス、母の日等向けのスタイルを加える。（３）子供対象の体験教室を開く等々。あと、ひと押しで未来が垣間見えて来そうである。少しの工夫で花が活き人が潤うことを合言葉にして。

はじめての生け花

（K, O）

◆栄区吟剣詩舞会

廣瀬正岳 さん

《個性を活かした独吟が基本》

「会社勤めを了えてから、私は詩吟に入りました」と廣瀬さんは自己紹介し、前会長の川島宗鵬さんについて「吟・舞・唄等、多彩の芸を修めた人」と付け加えた。

構成吟「美しき日本」熊本城

続けて、詩吟の歴史、教え方、学び方の要領や時流に即した楽しみ方、等々が矢継ぎ早に語られて行く。既に、これからの 5～10 年の会の運営を見定めているような廣瀬さんは、この１月に会長に就任。

「吟剣詩舞会の本領は、まさしく詩吟・吟舞・剣舞の、品格の古典、のりの良い歌謡吟のコラボで、お客様に喜んで頂くことです」と強調する。 一方、華道、書道、茶道とのコラボにも興味を示す柔軟派でもある。

現今の課題として欠けることのない「会員減少への対策」については「寧ろ、発表・練習の場の確保が課題」との答が返って来た。 「詩吟は個性を活かした独吟が基本」に揺るぎはない。

頃合をはかって提案してみる“吟の対象である漢詩は本来、含蓄豊かなものであるが、その意味を汲み取れない場合がある。吟詠中の詩文のヴィジュアル化は如何”に対する答えは「伝統を守り、次の世代に伝承して行かねばならないが、映像技術等の取り組みも試みたい」と簡明であった。

（K, Y）

◆さかえ陶芸協会

川井綾子さん

《思いを継ぐ人は･･･》

46 歳から陶芸を習い始めた川井さん「懐石料理から食器への興味がふくらみ、伝統巧芸派に入門した」とは潔い。「懸命に修行したお陰で二年後には独立でき、『土の会』を名乗り、門弟が 20 数人になった 2007 年に文協入りをした」とテンポも快調。それまでの８年間は「秋の芸術祭には一般公募組で出展を続けていたが、文協の役員から強く誘われて素直に入会。そして、別の顔見知りの役員に推されて、そのまま、事務局入り」当時の戸惑いぶりをゆっくり語る。文協事務局の仕事は忙しかったが、更に黄瀬戸、志野、益子など興味の赴くままに諸先生に入門して磨きをかけた。

人気！

今では週３回の教室を続け、展覧会時には、その作品を準備し、運搬・陳列にも元

気な声を出している働き手なのだ。“土の会”を一緒に立ち上げた『朋』のお母さん方は、秋の芸術祭には小振りだが、夢のある作品を出品してくれ、10年来の朋友である。
“土の会”は３人を指導者として送り出したが、協会への加入はまだ先の話らしい。

◆栄区舞踊協会

《舞台は いつでも誰もが楽しい》

20周年のこの年に会員がほゞ半減して60名程になった事を、各活動グループ(支部)の代表の高齢化に因る引退が、としつつも恐縮げに話し始めたおふたり。 これからの展望については活弁となって言葉が溢れ出た。

花吹雪さん「趣味で始めて20年、娘と一緒に舞台に立てたら…と、10年前に協会に入りました」

藤村さんは「舞台に立つから元気で居られる。演技を見せるだけでなく“元気に楽しく”を今後も協会のモットーとして続けたい」と自らを諭すように。

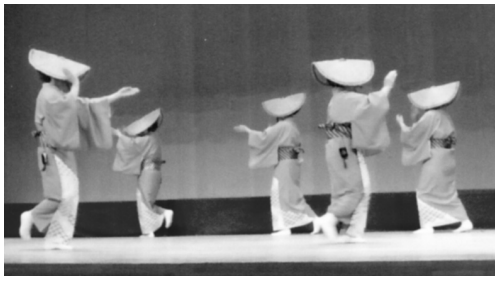
悩みもある「子供達は覚えが速く、めきめきと上達するけれど、中学生になると勉強・部活が忙しくなり遠ざかる。“舞踊のこころ”がいずれ復活するのを待つだけです」とつけ加える。

「定年になったから・・の人も歓迎です。立ち座りが出来れば踊れますから。その人に合わせた演目を選びますので」と受け入れ態勢も心強い。

その川井さん、これからは…の問いに「腰を落ち着けて、自分のやりたい陶芸は何かを追い求めたい」と自らを諭すように答える。時期が来ると誰もが抱える頭痛のタネ。一単協一団体という重さも加わるが、折角ブルドーザーで拓いた道“後窯はしっかりと”と願わずには居られない。（K, O）

藤村鶴登代さん、花吹雪尚公さん

今年はリオ五輪、バレーボール現役の花吹雪さんの“願望”は「パラリンピックのように、車椅子の人でも化粧して衣装を着けて踊れるようになれば…、そんな“振付”も考えたい」と眼が輝く。



チャンチキおけさ

世代交代は２年前、藤村さんから理事長役を引き継いだ花吹雪さんは「支部長さん達と一緒にお気に入りの楽曲で振付を創作して行きたい」とも。
“ナマ歌唱での踊りがあっても良いのでは… ”の誘いに即答はなかった。

（K, Y）

◆栄区囲碁協会

《ピラミッド型の愛好者たち》

囲碁協会の会員数は５年前から年々２名増で現在134名。「さらに増やしたいが、会場の確保が先ず問題」と訴える。

週末の朝９時頃の山を下るバス、囲碁教本と睨めっこの客が多い。他の持ち物はペットボトル一本。“昼までに二番”を意気込む元気な中・高年男性だ。それでも、

上級者クラスの対局

「子供たちは大勢集めたい。“はまっ子”へも講師を派遣して、この健全・知能ゲーム人を育てているが、

三間修司さん、植田米男さん、藤田　剛さん

大会参加者を抽籤で決めるのは忍びない」と三氏口を揃える。

協会加入はしていないが、栄区の囲碁界では“囲碁普及会”の活動が目ざましい。“ここを卒えた人は囲碁協会へ”のルートも想定され、協会会員が普及会の講師に名を列ねている。長年の努力がピラミッド型に近い囲碁人口分布を作り上げた。それだけに、「会場が足りない」は切なく響く。この会場探し問題は他単協とは別次元の“解”がありそうだが、知恵ある人に提案して貰いたいもの。

子供の話題をふたつ、笑いながらつけ加えて呉れた。「大人との対局で、渋い顔で苦しむ様子を平然と眺める態度は、もう子供などではない」、「大人は、勝負内容、賞品にファイトを燃やすが、子供の関心は昇級へひと筋」と。後生、恐るべしか。

（K, O）

◆栄区音楽協会 合唱部門･器楽部門

ブルーエコー 橋本洋子さん、コールやざわ 由田順子さん
チルコロ・マンドリーノ 北條京子さん

《それぞれに楽しく それぞれの課題を》

ブルーエコー、コールやざわ、チルコロ・マンドリーノは、揃って設立 36 年目。話題も十分。紙幅が不足しますとお断りしてのスタート。

「コールやざわは、矢沢小学校のＰＴＡコーラスが発祥。秋の音楽祭は区役所主催、戸塚での活動もありました」。湘南桂台の自治会コーラスとしてスタートのブルーエコー。チルコロは、３～４年の胎動期の後、クラブ誌に載った 1980 年に結成。

ここ 10 年間での話題は「第九」。その９回に亘る

音協 20 周年第９回栄「第九」演奏会

公演の歴史を熱ぽく語って呉れた。「最初は音協主催で、栄フィルと栄混声合唱団、それに一般募集で構成。主催者が実行委員会に､再度音協に戻るなど、“第九”は大事業であった。合唱団員の確保に苦労した」と由田さん。

チルコロの北條さん「50 人前後の会員を保っているが、募集条件は女性、経験者。分裂しない、居心地がよい、転勤は休部扱い、いずれ戻って来る」。また悩みもある。「マンドリンフェスティバルは今年からやめた。会員の高齢化が一因」、「10 月の定期演奏会は 16 回目。２年に１回。制服が入らなくならぬようにと心配しながら 20 回までは頑張りたい」と意気軒昂。

橋本さんは、「秋の芸術祭には中学校・高校の合唱、中学校の吹奏楽を招待し、世代間交流を図っている」、「20 数団体を数える合唱団は、総じて会員数が減っている。身体が不自由でも歌うことの楽しみは持ち続けて欲しい」、「シニア連で合唱団結成の動きがあり、一緒にやって行ければ嬉しい」と合唱・器楽の在り方、拡がりを語る。

また、秋の芸術祭の文協 20 周年記念音楽祭は、「木下牧子作品コンサート」で、合唱や作曲家木下牧子のトーク、音楽物語“蜘蛛の糸”の公演決定。この新しい風に期待しましょう。 （K，N）

◆フォトＳＡＫＡＥ

野仲加津子さん、星　明男さん

《“協力、親睦、民主的”をモットーに》

10 年前、文協 10 周年さわやか特集号に、「文協設立以来の栄区写真協会がリーダーの高齢化と“文協加入のメリット”などの議論に馴染めず、退会した」の記述がある。その時、“写真部門がなければ、芸術祭のギャラリー来場者は半減する”との危機感から、創作部を挙げて写真の一般参加者の公募に集中し、他部門との合同展示で乗り切った記録がある。その後、間もなく新加入した栄写真愛好家協会はユニークな運営・存在であったが、リーダーの健康事情により退会に至った。

三代目の登場が平成 23 年４月のフォトＳＡＫＡＥ。文協への加入前に、地元愛好家への根回しが進んでいて入会は４グループ 70 名。“協力、親睦、民主的”と伸びやかな方針を掲げた若い力の単協だった。山手学院高校の加入で若さと自由が刺激された運営が進んでいる。華道や手工芸からの協力も得ながら、今や定番の課題“会員減”では､「栄区内の20程の写真グループに声をかけたが、“役員はやりたくない”の反応だった」 又、「会員が 100 名超になると､別の問題も出てくる」と会場の確保を心配する。

今年の芸術祭は会員 68 点、公募 25 点を予定し、

仲間たち 2015

栄区と文協の周年事業に因んで、〝栄区を撮る〟をメインテーマにする、としている。楽しみである。「これから５年程は、現在の順行運転を続けて安定させ、次の飛躍につなぎたい」とお二人は声をそろえた。

（K，O）

◆栄区吟詠協会

《きっかけを待っている人は必ず居る》

吟詠協会の文化協会加入は、平成 26 年４月だが、それ以前は吟剣詩舞会に所属しての活動であった。

文化協会 20 周年に因んだ今回の取材テーマ「20 年を経ての現在・過去・未来」を問いかけるや、判り易い夫々の答がポンポンと返ってきた。

「一時期、文化協会から退いた理由は、個人出吟の機会確保の体制作りのためです」、「秋の芸術祭、春の文化祭での公演は、やり甲斐はありましたが、誰もが時間的、費用的に出吟し易い場作りを目指しました」、「この秋、当会３周年大会を地球市民プラザホールで行う時にも、一般の方々への広報をしっかり進めて、詩吟を広めたい。そして“人生の旅路”をテーマの構成吟で広大な世界観を、細密な人の情感を、受け取って欲しいのです」

吟ずる詩句は、それを書いた人々の心、周辺の情景が思い浮かぶように表現するのが吟者の技能、務め。詩吟は楽しさと人生の糧に結び付きます。

山川岳芳さん、若林岳洸さん、相良岳峰さん

「昔、詩吟は学校の部活や、会社・団体内で奨励され愛好者が育って来ましたが、現在では、これが無いのです。 栄区の幾つかの小学校で、５・６年生に“詩吟体験教室”を開講中ですが、部活に加えて頂けないかなー 」

秋の大会に、生徒達を招待しては？ の問いには頷いてくれた。

華道吟「花のまこと」

「コラボは、華道・書道の外に、水墨画や空手の型も面白い」、「会員は増えているが、それでも未だ、詩吟を始めるきっかけを待っている人は必ず居る」と未来を見つめる眼が若い。 （K，Y）

◆手工芸・ＳＡＫＡＥ

《この秋“いたち川オブジェ”を》

文協で最初のローマ字名の単協。創設は文協誕生と同じ年、2002 年の改組時に名付けられた。現在７種団体（フラワーアレンジメント、染色、デコパージュ、粘土アート、布細工、押し花絵、グラスアンドシルキーアート）の他 17 種の大小、多彩、多材の手工芸品を作り出す個人会員を合わせて 80 数名の陣容。

多彩、多材 2015

芸術祭の展示では、全会員の作品が出揃うので、その展示も２，３Ｄ、空間、ケース入り、固定と、会場内に隙間はない。曽ては、スペース、位置取り、照明等の按配に苦労があっただろうな、と想像できる。

手工芸・ＳＡＫＡＥ展の特徴は、“新会員の勧誘”に出ている。主要ブース前には体験コーナーが併設され、常に若い人、若い子が脇目もふらずに部品の組み立て、貼り付けに励む。多分、この人達は体験

佐々木信子さん、及川久子さん、佐野由美子さん

作品を作り終えたら、踵を返して帰宅する。「常連さんが多いので、期間中は毎日詰めています」と、満足げに。

リリス会場の入り口には坪庭ほどのスペースにウエルカムオブジェが立つ。これの出来具合で展示会への意気込みが測れるようで面白い。結構、観入っている来場者も居る。「歓迎のご挨拶でもあるし、広告塔でもありますから、力を入れて作成します」と自信たっぷり、心強い。

課題の第一は、「もう少し広さがほしい」という。５，７，10 周年には、鎌倉芸術館や北鎌倉古民家ミュージアムで羽根を伸ばして来たが、これはこれで、その後の活動に役立っていると見た。

「今年は栄区制 30 周年、文協 20 周年の記念事業として、公会堂ホワイエで展開する『いたち川オブジェ』 製作が最大の行事」と、この女性（が大多数）集団の傑作が 10 月半ばにはお目見得する。

第二の課題を早口で加えて呉れた。「作品の重量を感じ、車の運転は卒業となると、展示物の搬入・出が難しくなりますね。文協内で対応して貰えれば…」と痛切な訴え。さて、どうします。 （K，O）

出来事２０年

年代 年号	文化協会の できごと	会員数 （人）	栄区（地域）の できごと	横浜市/国内外の できごと
1994 平成６	・４月：第１回世話人会 （世話人会は平成６～７年に ８回開催）		・豊田地域ケアプラザ開設 ・大いたち橋、小いたち橋竣工 ・生涯学習支援センター開設	・横浜市は青葉区と都築区を新設、18区となる ・関西国際空港開港 ・松本サリン事件発生
1995 平成７	・９月：第１回発起人会議 （発起人会議は８回開催） ・会の名称：栄区文化協会 ・会費：300円/年 ・規約原案を決定		・栄区役所新館開設 ・訪問看護ステーション開設 ・公会堂にふれあいショップ「さんぽみち」開設	・阪神淡路大震災 ・地下鉄サリン事件
1996 平成８	・２月24日：**栄区文化協会設立**総会、設立祝賀記念式典を開催（栄公会堂） ・初代会長に北條祐勝氏就任 ・「栄区民文化祭」開催（協力） ・「栄文協さわやか情報」創刊	2,091	・５代区長佐藤雅亮氏着任 ・第４回横浜彫刻展作品設置 ・本郷台駅前駐輪場改修 ・栄区制10周年記念式典	・在ペルー大使館公邸占拠事件 ・アトランタ五輪 有森裕子選手“自分で自分をほめたい” ・横浜能楽堂が開館
1997 平成９	・４月：ロゴ公募・決定 ・「さかえ芸術文化祭」開催スタート ・「栄区民芸術祭」開催 ・「さわやか」誌の題字改定 ・「さわやか」特集号（1周年記念）発行	2,724	・桂町戸塚遠藤線一部開通（長光寺から環状３号線）	・長野新幹線開業 ・消費税５％に上がる
1998 平成10	・第２代会長に上園正憲氏就任 ・「リリス」開館記念行事に参加 ・さかえの民謡がハワイ大学記念行事に参加	2,835	・６代区長田中克子氏着任 ・栄区民文化センター「リリス」開館 ・いたち川プロムナード完成 ・中野地域ケアプラザ開設 ・栄区福祉保健活動センター開設	・長野オリンピック ・横浜国際総合競技場、横浜国際プール、横浜みなとみらいホールオープン。 ・横浜ベイスターズ38年ぶり日本一
1999 平成11	・国際交流部新設 ・「横浜みなとみらいホール」で栄区音楽協会がマーラーの交響曲第２番「復活」を演奏 ・「日中韓市民交流フェスタ」に栄区三曲協会が参加	2,918	・飯島せせらぎ緑道完成 ・矢沢堀小川アメニティ完成 ・環状３号線が長沼まで開通 ・桂台地域ケアプラザ開設 ・中途障害者地域活動センター「わ～くらぶ・さかえ」開設	・よこはま動物園ズーラシア開園 ・横浜市営地下鉄ブルーライン全線開通 ・世界人口が60億人突破
2000 平成12	・栄公会堂にて第５回定期総会開催 ・第１回「あーすフェスタかながわ」開催。文協三曲協会が初参加 ・「栄区民芸術祭」文化協会主催でのスタート	2,749	・７代区長長岡英昭氏着任 ・洗井沢小川アメニティ完成 ・本郷ふじやま公園弓道場開設	・九州・沖縄サミット ・シドニー五輪 高橋尚子選手女子マラソン金メダル
2001 平成13	・「あーすフェスタかながわ」に三曲、茶道が参加 ・５周年記念特集「さわやか」 ・文協会費 300円→500円へ	2,647	・小菅ヶ谷地域ケアプラザ開設 ・笠間地域ケアプラザ開設 ・いたち川扇橋の水辺竣工	・米国同時多発テロ事件発生（9.11） ・「横浜トリエンナーレ2001」開催

出来事２０年

年代 年号	文化協会の できごと	会員数 （人）	栄区（地域）の できごと	横浜市/国内外の できごと
2002 平成14	・ＦＩＦＡワールドカップ直前イベント 横浜さかえ男声、栄少年少女合唱団、民謡連盟、洋舞協会参加（本郷台駅前） ・「あーすフェスタかながわ」に三曲、茶道が参加	2,603	・８代区長杉山誼氏着任 ・福祉保健センター開設 ・扇橋の水辺「横浜・人・まちデザイン賞」受賞	・小泉首相、北朝鮮訪問（1回目） ・赤レンガパークオープン ・日韓ＦＩＦＡワールドカップ開催 ・横浜市の人口350万人を超える
2003 平成15	・「さかえ芸術文化祭」→「さかえ春の文化祭」に改称・開催 ・「あーすフェスタかながわ」に三曲が参加	2,546	・本郷ふじやま公園「古民家ゾーン」開園	・横浜市長が横浜G30行動宣言 ・イラク戦争勃発 ・個人情報保護法成立 ・世界の人口63億人となる
2004 平成16	・第３代会長に木澤要治氏就任 ・「あーすフェスタかながわ」に三曲、茶道が参加 ・栄区文化協会ホームページ発足 ・栄区民芸術祭のプログラムをパンフレット化 ・芸術祭公演に「優待席」スタート	2,296	・９代区長吉久保英雄氏着任 ・栄区全域で分別収集品目拡大	・みなとみらい線開通 ・裁判員制度法成立 ・日朝首脳会談（2回目） ・新潟県中越地震 ・スマトラ沖地震発生 ・アテネ五輪
2005 平成17	・「栄区役所 昼休みミニ☆コンサート」スタート ・「あーすフェスタかながわ」に三曲が参加 ・第１回栄「第九」演奏会開催	2,377	・地区センター利用料金制開始	・中部空港（セントレア）開業 ・ＪＲ福知山線脱線事故 ・愛知万博（愛・地球博）
2006 平成18	・「栄区文協10周年記念式典と集い」を開催 ・「さわやか」特集号（10周年記念）発行 ・「あーすフェスタかながわ」に三曲、茶道が参加 ・第２、３回栄「第九」演奏会開催	2,503	・10代区長宮永啓子氏着任 ・大船駅笠間口開設 ・上郷地区センター開設 ・鎌倉街道全線４車線化完成 ・栄区制20周年記念式典 （記念コンサート 栄「第九」、栄少年少女合唱団）	・日本郵政株式会社発足 ・モーツアルト生誕250年
2007 平成19	・「あーすフェスタかながわ」に三曲、茶道、舞踊、民謡が参加	2,581	・「さかえ区民活動センター（ぷらっと栄）」開設 ・「飯島コミュニティハウス」開設	・能登半島地震 ・新潟県中越沖地震
2008 平成20	・第４代会長に北山士童氏就任 ・栄区事業・さかえなんでも知り隊～「アート知り隊」を企画・実施 ・「あーすフェスタかながわ」に三曲、茶道（体験コーナー）、舞踊・民謡コラボ、華道が参加 ・第４回栄「第九」演奏会開催	2,482	・11代栄区長光田清隆氏着任 ・桂町戸塚遠藤線 （飛石交差点先）開通	・横浜市営地下鉄グリーライン（中山-日吉間）開通 ・リーマンショック ・北京五輪
2009 平成21	・横浜開港150周年記念事業参加各単協、事業部でイベントを開催 ・「あーすフェスタかながわ」に三曲、舞踊、民謡、茶道、華道が参加 ・「世界こどもスポーツサミットIN横浜」に参加 ・第５回「第九」演奏会開催	2,418	・野七里地域ケアプラザ開設 ・環状４号線の４車線化 （鎌倉女子大～公田町）	・開国博Ｙ150開催 ・政権交代（民主党へ）

出来事２０年

年代 年号	文化協会の できごと	会員数 （人）	栄区（地域）の できごと	横浜市/国内外の できごと
2010 平成22	・「あーすフェスタかながわ」に三曲が参加 ・第６回栄「第九」演奏会開催	2,366		・ＡＰＥＣ首脳会談横浜で開催
2011 平成23	・大震災により春の文化祭一部中止 ・「あーすフェスタかながわ」に茶道、華道、民謡、舞踊が参加 ・第７、８回栄「第九」演奏会開催	2,352	・12代区長尾仲富士夫氏着任 ・「さかえ次世代交流ステーション」開設	・東日本大震災(3.11) ・エジプト、リビアにも「アラブの春」 ・なでしこジャパンがW杯で世界一に
2012 平成24	・第５代会長に風間聰彦氏就任 ・「あーすフェスタかながわ」に茶道、華道が参加 ・栄村物産販売（音協） ・文協ファイル作成	2,148	・「上郷矢沢なかよし公園」開園 ・「ＭＩＳＩＡの森」プロジェクト開始	・ＴＶ放送が地デジに移行 ・自民・公明が政権交代 ・消費税増税法成立 ・東京スカイツリー開業 ・ロンドン五輪
2013 平成25	・「あーすフェスタかながわ」に茶道、三曲が参加 ・ DanceDanceDance@YOKOHAMA に舞踊連盟・協会が参加 ・ホームページリニューアル着手 ・栄村コンサートツアー・物産販売(音協)	2,139	・「上郷矢沢コミュニティハウス」開設	・国の借金 1000 兆円突破 ・ DanceDanceDance@YOKOHAMA 開催
2014 平成26	・「あーすフェスタかながわ」に民謡(民舞)、書道、舞踊(子どもの舞踊)が参加 ・「さかえ girls day」参加（芸能部門）	2,149	・「さかえ girls day」開催 ・「アート de つながるショップ・ショップ・ショップ」開催 ・「ＭＩＳＩＡの森プロジェクト」空から森を見てみよう(熱気球)開催	・消費税８％スタート ・エボラ出血熱でＷＨＯが緊急事態宣言
2015 平成27	・第９回栄「第九」演奏会開催 ・20 周年プレイベントを実施 ・「あーすフェスタかながわ」に書道、お茶、民謡で参加 ・栄区制 30 周年記念事業に各種イベントが参加	2,164	・栄区制 30 周年記念プレイベントを実施。 ・栄区制 30 周年記念事業を 10 月３日から平成 29 年３月までの 500 日間で展開	・安全保障関連法が成立 ・北陸新幹線開業 ・米キューバ 54 年ぶり国交回復 ・油井さん無事帰還－宇宙滞在 141 日
2016 平成28	・20 周年記念イベント実施 ・５月 25 日:20 周年記念式典（公会堂） ・第６代会長に西崎進治氏就任 ・「あーすフェスタかながわ」に書道、お茶、三曲で参加 ・「さわやか」特集号(20 周年記念)発行 ・20 周年記念特別企画として秋の芸術祭で「いたち川オブジェ」の展示、「木下牧子作品コンサート」の音楽祭を実施(11 月)	2,043	・13代区長小山内いづ美氏着任 ・11月３日：栄区制 30 周年記念式典 ・「さかえ音楽フェスティバル」を９月18日から12月17日までの期間で展開 ・全区挙げて祝賀・記念行事連続開催	・日銀マイナス金利導入 ・世界各地でテロ頻発 ・電力の自由化 ・「伊勢志摩サミット」開催 ・米オバマ大統領広島を訪問 ・英国の欧州連合離脱問題 ・バングラデシュ飲食店襲撃事件 ・リオ五輪

21年目のスタート

撮影：井上 紀子さん

２０年間賛助会員の皆さまにご協力をいただいてまいりました　ありがとうございます
現在の栄区文化協会賛助会員の皆さまをご紹介させていただきます（順不同、敬称略）

小菅ヶ谷連合町内会 自治会会長　田中 健次	柴崎内科クリニック 柴崎 洋一	(有)みのくち 長瀬 安敏	なかたクリニック 中田 智大
(有)カウベルコーポレーション 中村 進一	鎌倉カントリークラブ 総支配人 田中クリス	上郷フィールドアスレチック 高橋 昭義	(有)久保田塗装工業所 久保田一彦
小菅ヶ谷町内会 会長　丸　　茂	箏・三味線のぼる 根本 昌之	栄区飲食業同業組合 理事長　佐相 幸延	角田税務会計事務所 角田 晃孝
タクノ印刷 中森　孝久	(株)タツノ 龍野 廣道	特養老人ホーム上郷苑 施設長　篠原 正治	(有)豊田印刷所 金子喜久男
上郷町 長瀬 清子	(有)ナカムラ生花店 吉田　敬	野村医院 野村　武	(株)宮古寿司本店 楠　　明
横浜銀行 本郷台支店	よこはま緑の推進団体 栄連絡会会長　榎本イク子	(有)よろい寿司本店 近江　清	
(有)ライトスタッフ・スタジオ 森　雅宏	和菓子舗　龍月 鎌田　忠	横浜さかえ内科 中田　靖	

20年目の Concerto

《創作部会》手工芸･ＳＡＫＡＥ 栄区書道協会 栄区園芸協会 栄区美術連盟 栄区美術家協会 栄区華道協会 フォトＳＡＫＡＥ さかえ陶芸協会 《教養部会》栄区囲碁協会 栄区茶道会 栄区礼法の会 《音楽部会》栄区音楽協会 栄区邦楽協会 《芸能部会》栄区舞踊連盟 栄区舞踊協会 栄区民謡連盟 栄区吟剣詩舞会 栄区吟詠協会

◇ 編 集 後 記 ◇

◇20 年式典とインタビュー取材で 118 名のお名前登場。
　ご列席いただき、お会いできて本当に良かった、と。
◇インタビューは難しい。意が十分に伝えられぬは取材側の未熟と文責を感じる。
◇編集の５人、十数回、数十時間の打合せ､他人が 20 年来の知己に。
◇次の 10 年、より速く飛ぶ。“水到りて渠成る”、この逆もまた。

さわやか ＮＯ．５０ 特集号
栄区文化協会２０周年記念
平成 28 年９月 15 日発行

発行　栄区文化協会 西崎進治
編集　栄区文化協会 20 周年実行委員会
　　風間聰彦 野仲加津子 八神武夫
　　奥野知行 中田　健
印刷　（有）豊田印刷所